

論証するには？

pp.40-42で、段落においてトピックセンテンスを証拠として支えるサポーティングセンテンス、その詳細としてサポーティングディティールの文を置く、ということ学びます。

では、論を進めるうえでどのようなことが証拠となるのでしょうか。さらに論証、つまり論理的に証明するには何が必要でしょうか。論証の確かさは、一段落内でも、またレポート・論文全体の構造においても、その成否を決める鍵となります。

▶ 論証の根拠となるもの

学問分野やテーマによってさまざまで、事実やデータであったり、文献資料であったりするでしょう。いずれの場合でも、それが信頼に足る確かなものであるかを確認することが必要です。論拠になるのは「事実」のみです。

<論拠とする「事実」に誤りはないか>

■ 調査や実験などのデータは偏りが生じないよう適切な方法で得られたものであるかどうか。他の文献やインターネットなどに掲載されているものを引用する場合は、その調査や実験方法の適切さを検討するとともに、そのデータが今なお有効か、時間が経って変化している可能性はないかを吟味することも重要です。

<データや「事実」は結論を導くのに十分か>

■ 文献資料では、それが制作された時点のおおもとにさかのぼって原本のかたち（一次資料）、あるいはそれにできるだけ近いかたち（信頼できる翻訳・翻刻など）のものを利用しましょう。二次資料・三次資料になると信頼性は下がります。

以上の点を確認したうえで、根拠として用いましょう。

▶ 論証すること

適切な論拠に基づいて論を展開したとしても、そこに飛躍や不足があっては論証にはなりません。提示した論拠だけで、述べようとしていることが本当にそういい得るのかどうかを確認しなければなりません。たとえば、大学生についての調査データを提示して、現代の若者についての論を展開したとします。しかし「若者」には大学生でない人も多く含まれているわけで、大学生だけのデータでは不十分でしょう。あるいは、「法政大学のえこびんは、これから学外でも人気が出るだろう」と述べるにあたって、えこびんが本学でとても人気があることを述べるだけでは不十分です。前提として、ゆるキャラブームがあること、えこびんもその一つであること、そしてえこびんに人気ができる要素が十分にることなども必要な情報です。

論拠の不足はないか、論に飛躍はないか、しっかりと確認しましょう。

い えこびん



2008年、当時の人間環境学部学生のデザインによって環境改善活動推進キャラクターとしてデビュー、2013年にサステイナブル社会の実現をうたう法政大学のキャラクターに昇格

▶ 反対の主張や例外はないか

あなたが述べようとしていることに反する主張や例外となる事実がないかどうかをあらかじめ検討しましょう。もしあれば反論や例外として示しておきましょう。読む側の立場からみれば、別の可能性があらかじめ否定されていることで、主張の説得力が大きく高まります。

▶ 主張の確かさには段階がある

世の中、すべてを白か黒かでは語れないように、学術的な主張にも、100%の確かさでいえることもあれば、80%ほど、60%のこともあります。あるいは30%くらいの可能性しかない事実を指摘することもあるでしょう。「必ず」「すべて」なのか、「ほとんどの/たいていの場合」、「多くの場合」、「ときには」、「まれに」などと、どのような確率でいえそうなのか、慎重に提示しましょう。文末でも、「である/いえる」とするのか、「であろう/いえよう」とするのか、あるいは「あり得る」とするのかといった主張の強弱に注意して書きましょう。

アカデミックライティングの基礎 – パラグラフとは –

大学における学術的な文章の書き方をアカデミックライティングといいます。アカデミックライティングの基本に、パラグラフという文の構成方法があります。主題文・支持文・結びの文という三つの構成要素から成り立っています。次の例で考えてみましょう。

例文

全国各地の地域活性化に一役買っている「ゆるキャラ」が、大学でも続々と生まれている。大学がキャラクターを作るメリットは、大まかに3つ考えられる。第1に、大学のイメージを直感的に伝えられる。法政大学は「えこびよん」によって、従来の硬い大学のイメージが親しみやすいものになっている。第2に、広報上の効果が挙げられる。親しみやすいキャラクターとともに大学教育の特徴や成果などが、外部の人々に伝わりやすくなる。着ぐるみや人形となって実際に現れることで、より鮮明なイメージを与えることもできる。第3に、メッセージ性の存在がある。例えば、えこびよんには「エコ」という言葉とともに大学の環境配慮のポリシーを間接的に伝えることができる。このように、大学のゆるキャラは親しみやすさとともに、情報発信や教育理念の一端をも示すことができる絶好の存在なのである。



▶ パラグラフの構成

| | |
|-----------------------|--|
| 主題文(TS) | 全国各地の地域活性化に一役買っている「ゆるキャラ」が、大学でも続々と生まれている。大学がキャラクターを作るのには、大まかに3つの利点が考えられる。 |
| 支持文(SS1) 説明1 (SD1) | 第1に、大学のイメージを直感的に伝えられる。法政大学は「えこびょん」によって、従来の硬い大学のイメージが親しみやすいものになっている。 |
| 支持文(SS2) 説明2 (SD2) | 第2に、広報上の効果が挙げられる。親しみやすいキャラクターとともに大学教育の特徴や成果など、外部の人々に伝わりやすくなる。着ぐるみや人形となって実際に現れることで、より鮮明なイメージを与えることもできる。 |
| 支持文(SS3) 説明3 (SD3) | 第3に、メッセージ性の存在がある。例えば、えこびょんには「エコ」という言葉とともに大学の環境配慮のポリシーを間接的に伝えることができる。 |
| 結び文(CS) | このように、大学のゆるキャラは親しみやすさとともに、情報発信や教育理念の一端をも示すことができる絶好の存在なのである。 |

TS(トピックセンテンス)はパラグラフの中心的な話題と筆者の考え(コントローリングアイデア)を簡潔に述べる文です。

展開部分はTSの主張を支える複数の支持文(SS: サポートセンテンス)から成り立っています。SSは客観的に、各SSに続くSD(サポートディティール)は具体的に書きましょう。

CS(コンクルーティングセンテンス)は、TSで述べたアイデアを言い換えたり、重要な点をまとめてアピールしたりする文です。省略されることもあります。

自分自身の力を信じて、
キミにしか書けない
レポートを書こう。



小論文もレポートも論文も、パラグラフが基本

パラグラフの3段階の論理構成(TS・SS+SD・CS)を拡大することで、論文やレポートなどの長い文章も書けるようになります。p.38で触れたレポート・論文も序論のパラグラフ、本論のパラグラフ(複数)、結論のパラグラフから成ります(次ページ参照)。理系のレポート(p.38)はもちろんです、社会科学系の論文もそれぞれの構成部分で常にパラグラフ構造に従って書くことで、わかりやすく論じることができます。さらに、明快なパラグラフは、将来皆さんの役に立ちます。就職活動時の志望動機、就職してからのビジネスメールなど、常に基本となる文章のつくりなのです。

Tips

パラグラフはわかりやすく話すためのコツ!

人に何かを説明するとき、TSのように話題と自分の考えを述べてから、細かい説明を順序立てて話すように心がけてみましょう。話が通じやすくなるかもしれませんよ。

▶ 小論文の параграф構成 (800文字程度を想定した場合)

| | | |
|----|----------|---|
| 序論 | параграф | 1～2文目：トピックに関して注意・興味を引く内容 3～4文目：トピックに関して一般的情報や背景的情報 5～6文目：トピックに関する自分の意見や考え(命題文)、論文の概要(本論の параграф展開)を予告 |
| 本論 | параграф | 1文目(TS)：命題文を支える1つ目の話題と思考 2～4文目：TSを裏付ける具体例や事実(データ・資料)など 5文目：この параграфでの議論をまとめ、TSを再度強調 |
| | параграф | 1文目(TS)：命題文を支える1つ目の話題と思考 2～4文目：TSを裏付ける具体例や事実(データ・資料)など 5文目：この параграфでの議論をまとめ、TSを再度強調 |
| | параграф | 1文目(TS)：命題文を支える1つ目の話題と思考 2～4文目：TSを裏付ける具体例や事実(データ・資料)など 5文目：この параграфでの議論をまとめ、TSを再度強調 |
| 結論 | параграф | 1文目：命題文(自分の結論)の言い直し(異なる表現) 2文目：本論の3つのTSを異なる表現で整理して理由づける 3文目：結論を強調するためのメッセージ |

命題文とアウトライン

論文構成の心臓部は、命題文です。論文のアウトラインのもととなる文です。この文が、後続の本論の中の параграф構成をコントロールすることになります。あいまいな内容だと、論文そのものの方向性もあいまいになりがちです。英語ではThesis Statementと呼ばれ、本論部分の各 параграфの主題文(Topic Sentence)を束ねる重要な文です。何度も書き直したりして、十分に推敲しましょう。

本論の部分にはさまざまなパターンで展開できる

параграфの構成パターンには、列挙、例示、時系列、手順・方法、分析、原因・結果、比較・対照、問題解決などがあり、いくつかの параграфで構成するかも任意です。本論で параграфをどのように構成するか、内容の性質に応じて параграфのパターンをあらかじめ考えましょう。